

|           |   |
|-----------|---|
| 学位被授与者氏名  | 太田 真弓   |
| 論文題目      | 罪を犯した女性の立ち直りについて  |
| 論文審査結果の要旨 | <p>本論文は、近年高止まり傾向にある女性受刑者の立ち直りに焦点を当てたものである。立ち直り研究は男性を対象としたものが多く、女性特有の生活スタイルや人間関係の結び方が浮き彫りにされた独自性の高い研究と評価できる。また、既存の対象者観とは異なるストレングスに基づく対象者観を提案した点でも、同様のことが言えよう。ただ、その一方で対象者が高齢者に偏っていたという課題も指摘できるうえ、対象者の少なさについても課題が残る。したがって、今後は幅広い年代を対象としたさらなる分析に期待したい。</p> <p>とはいえ、先行研究に内包される課題から本論文で検証すべき点を的確に指摘し、論文全体の論理的な一貫性を保持している点や、対象者と信頼関係を構築しつつ、丁寧な聞き取りのもとに労力を費やし、緻密な分析を施している点、そこから示唆できる制度上や臨床上の改善点を提案している点等は高く評価できる。また、参考文献として学術論文や政府刊行物を引用しており、修士論文レベルに十分に適っていると判断できる。</p> <p>2021年2月19日に、オンライン上で審査委員全員参加のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p> |